



介護あんしん 相談員だより

第35号 平成30年7月発行
発行：鳥栖地区広域市町村圏組合
(介護保険課 地域支援係)
連絡先：0942-81-3111

介護あんしん相談員は橋渡しをします！

施設に入居していると、ちょっとした不満や不安があっても、直接スタッフに言うことを遠慮してしまうことがあります。介護あんしん相談員は、ご本人やそのご家族が施設職員に直接は言いにくいことをお聞きしたり、客観的な目で見えたりした点を施設側に伝えて問題の解決をはかります。



利用者さまや介護あんしん相談員の声からいくつかご紹介します
(平成30年3月・4月・5月)



～介護あんしん相談員の声より～

相談員：利用者さまの人数も減り、ゆっくりとした時間が流れているようですね。
施設：今だからできる事を、利用者さまの為に…との想いで職員全員が考え、関わりを持ち実践に取り組んでいます。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



内容としては、散歩やドライブ、利用者さまから希望があった個別ケア（ボーリングやヨモギ摘み等）にも積極的に出かけ、利用者さまからも喜んでいただく事が出来ているということです。

こちらの施設では、利用者さまの人数が減ったことに対して、むしろ減った時にしか出来ない対応をと考えて頂けている事に、本当に考え次第で色々な挑戦が出来るという事を教えて頂いた気がしました。

どこの施設でも、急な入院や様々な理由による退去が数件重なる事も多々あると思います。その様な時はむしろチャンスと捉え、日頃出来なかった事等を利用者さまの為に、計画されてはいかがでしょうか。

ありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。



～利用者様の声より～

利用者：ここに来てから歩けなくなった。
施設：入居される前から床を這って移動されていた方です。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



利用者さまは歩行困難な方だそうですが、生活状況の低下を防ぐために、トイレにお誘いする時は立った状態でお連れし、また食事の時には椅子に座っていただき、座る練習をされているそうです。施設では「歩けなくなった」というマイナスイメージをプラスに変える働きかけをされていていらっしゃるのので、「少しずつ動いているので、また一緒にがんばりましょうね」等と声かけをして頂けているのではないのでしょうか。

こちらの施設では、施設全体で生活の状況の向上のために取り組んで行かれるそうです。

また、他の施設でも、家に帰ることを目標に、トイレから遠い席に座り、その間を長く歩くことにより、リハビリができるように席を変えたと話された利用者さまがいらっしゃいました。このように、生活の場面場面でスタッフの方が意識されてリハビリを行われている事はとても素晴らしいことですね。ありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

利用者：お粥におかずを混ぜられて食べさせられている。
施設：食事形態も含め、本人さまの状態を確認し、検討させていただきます。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



ご家族さまから「施設にはお世話になって感謝しているので、食事の件は職員さんには言えませんが、家に帰った時は家族と同じ食事を食べています。」とのご相談がありました。

自分でお粥におかずを混ぜることと、他の人に初めから混ぜられることは、同じ様で違うのかもしれませんが、利用者さまの病気による食事形態でしたら、ご本人やご家族さまへの説明を十分に行い、ご本人の好みを聞き、イメージを共有することも大事なことです。また、お粥よりも普通のご飯の方が噛む回数も多くなり、脳への刺激も多く認知症予防にもつながり、便も作られることになるようです。

利用者さまにとっては、施設でのお食事は毎日の大きな楽しみの一つではないでしょうか。利用者さまの体調等も日々変化しますので、「今日のお食事はいかがですか？」と一声かけて頂くだけでも、気持ちを伝えることが出来るようになるのではないのでしょうか。

後日、施設では利用者さまやご家族さまとお話をされ、対応して頂いたようです。ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。



鳥栖広域 相談員だより

検索

鳥栖地区広域市町村圏組合のホームページで、今までの「介護あんしん相談員だより」を閲覧することができます。ご利用ください。